ウィークリー・マーケット・レポート

東京市場ウィークリー・レビュー／2026年11月16日（月）～20日（金）　発行：ていネコの投資ノート

1．今週のサマリー

- **指数の動き：**日経平均は前週末比4,705.70円安（−7.70%）の56,436.65円、TOPIXは267.35ポイント安（−6.78%）の3,674.22と、ともに2週ぶりに反落。日経平均は20日に3,007.56円安と下げ幅歴代5位を記録し、約7カ月ぶりの安値となり、前週の上昇幅をすべて打ち消して11月6日終値を998.12円下回った。
- **主因：**エヌビディアの好決算やアンソロピックの米ナスダック上場（史上最大規模のIPO）という買い材料が相次いだがAIの採算性への疑念と換金売りが勝った。FOMC議事要旨などで米利上げ観測が強まったことも重荷となった。
- **物色の特徴：**東証33業種は全業種が下落したが、空運・小売・医薬品は下落率1%未満と相対的に下げが小さかった。非鉄金属は銅価格の急落と電線株売りが重なり−21.56%と突出した。
- **注目材料：**米国では20日にナスダックが5.28%安、SOX指数が10.73%安と崩れ、VIX指数は35.89へ上昇。3連休明け24日の東京市場はこの下げの織り込みから始まる。25日の米PCE物価と27日の東京都区部CPIが日米の利上げ観測を左右する。

2．主要指標の週間騰落

指標	週末水準	前週比	騰落率	備考
日経平均	56,436.65円	−4,705.70	−7.70%	20日に3,007円安で安値引け
TOPIX	3,674.22	−267.35	−6.78%	5日続落。NT倍率は15.51→15.36に低下
NYダウ	48,147.33ドル	−4,200.22	−8.02%	5日続落、調整局面入り
S&P500	6,910.39	−651.28	−8.61%	7日続落、調整局面入り
ナスダック総合	22,617.73	−2,518.54	−10.02%	20日に5.28%安、年初来の上昇分を消失
SOX指数	8,408.59	−1,737.73	−17.13%	20日に10.73%安。エヌビディア約14%安
ドル円	158.57円	−1.14	−0.71%	週レンジ158.42～159.97円
ユーロ円	173.92円	−2.18	−1.24%	約13カ月ぶり円高水準（173.74円）
日本10年債利回り	2.785%	−0.080pt	−8.0bp	株安で債券買い。週高は16日2.885%
米2年債利回り	4.63%	−0.25pt	−25bp	週後半に低下、安全資産への逃避
米10年債利回り	4.92%	−0.23pt	−23bp	週間で5%台から4%台へ低下
WTI原油先物（12月限）	83.98ドル/バレル	−4.58	−5.17%	リスク回避で下落。20日は3日ぶり反発

3．日本株：週間レビュー

週間の値動き：「好材料出尽くし」が下げを加速

週初16日は、前週末の米半導体株安と7～9月期実質GDP速報（年率−0.1%、4四半期ぶりマイナス）が重なり、日経平均は寄り付きの61,348円から反落して1,480円安と6万円を割り込んだ。アドバンテスト1銘柄で約700円を押し下げた。17日も米政府の新たな半導体規制への警戒から801円安と続落。18日はエヌビディアの好決算で一時770円高まで買われたが、植田日銀総裁が追加利上げに前向きと伝わり163円高にとどまった。19日はアンソロピックの公開価格が仮条件上限を上回ったと伝わり一時636円高となったが、台湾株（−4.40%）の急落を受けて伸び悩んだ。

決定打は20日である。前日の米国で、アンソロピック株の購入資金を確保するための換金売りがAI関連株に広がったとの見方から、NYダウが1,101ドル安と崩れた。東京市場は893円安で始まり、3連休を前にした持ち高調整も加わって終盤に下げ幅を3,000円超へ広げた。値下がり銘柄はプライムの9割超、売買代金は8兆6,389億円と週内最大に膨らみ、投げ売りに近い売りが出たことを示している。

日経平均とTOPIXの関係も週の性格を映す。18～19日は日経平均が続伸した一方でTOPIXは続落し、19日はソフトバンクグループと東京エレクトロンの2銘柄で上げ幅の約6割を占めた（筆者算出）。指数の上昇は一部の値がさ株の買い戻しに支えられていたにすぎず、20日にその値がさ株が崩れると日経平均の週間下落率（−7.70%）はTOPIX（−6.78%）を上回った。

業種別騰落（東証33業種・週間）

順位	下落率が小さい業種	騰落率	順位	下落率が大きい業種	騰落率	主な背景
1	空運業	−0.33%	33	非鉄金属	−21.56%	銅急落・電線株売り
2	小売業	−0.44%	32	ガラス・土石	−11.19%	AI関連素材の売り
3	医薬品	−0.50%	31	銀行業	−10.98%	金利低下・換金売り
4	その他製品	−1.14%	30	卸売業	−10.09%	資源安・商社株安
5	精密機器	−1.52%	29	鉱業	−9.58%	原油・銅の下落

上位には内需・ディフェンシブ業種が並び、医薬品や小売は年初来高値圏を維持した。下位には非鉄金属・電気機器（−9.15%）などAI関連に加え、金利低下と全面的なリスク回避で銀行・証券も入った。電気機器や機械は高値から約3割下げた水準にあり、AI関連の調整の深さを物語る。

個別銘柄・半導体関連の話題

20日はAI・半導体の主力が軒並み大幅安となり、ソフトバンクグループが14.5%安、フジクラが12.2%安、キオクシアHDが11.7%安、アドバンテストが10.3%安、レーザーテックが9.2%安、ディスコが8.3%安、東京エレクトロンが7.1%安。銅先物の急落で三井金属（−13.3%）など非鉄・電線株も売られた。一方、東京海上HD（+2.0%）など保険株は逆行高となり、指数を下支えした。

投資主体別売買動向（11月第2週）では、海外投資家が現物で3,124億円の売り越し（3週連続）、個人も3,614億円の売り越し。前週の売買集計では信託銀行（3,933億円）と事業法人（3,069億円）が買い越した。

4．日々の推移

日付	日経平均	前日比	TOPIX	ドル円(東京引け)	日本10年債
11/16(月)	59,662.02	−1,480.33	3,901.37	159.57	2.885%
11/17(火)	58,860.43	−801.59	3,840.02	159.23	2.860%
11/18(水)	59,024.28	+163.85	3,824.00	159.26	2.870%
11/19(木)	59,444.21	+419.93	3,822.47	159.51	2.820%
11/20(金)	56,436.65	−3,007.56	3,674.22	159.10	2.785%

5．米国株・為替・金利

米国株は主要3指数がそろって大幅安となり、ナスダック総合は週間で約10%下落した。17日発表のエヌビディア決算は売上高が会社見通しを上回ったが株価は翌日以降に下落し、20日はすでに6%超下落していたところへ、ロイターがSECによる会計処理の調査を報じ、下げ幅を広げて約14%安となった。19日に上場したアンソロピックは初値が公開価格83ドルを34%上回ったが、20日は8.5%安の88.91ドルと上値が重い。

金融政策では、日本時間19日未明公表のFOMC議事要旨(10月会合分)でほぼ全員が追加利上げを適切と判断していたことが判明し、ウォーラー理事は12月会合での0.5%利上げの必要性に言及したと報じられた。市場は12月8〜9日のFOMCでの利上げをほぼ確実視しているが、週後半は安全資産への逃避が勝り、米10年債利回りは5%台から4.92%へ低下した。利上げ観測と景気不安が同時に強まる、株式には厳しい組み合わせである。

為替は、週前半は日米金利差を背景に159円台で底堅く、19日には159.97円まで円安が進んだ。ただ160円近辺では介入警戒から上値が重く、20日はリスク回避の円買いで158.42円まで円高に振れた。国内長期金利も2.785%へ低下し、円高と金利低下が輸出株と銀行株の双方に逆風となった。

6．高配当・優待銘柄トピック

今週発表の主な配当・優待の変更

- **モリト(9837):**19日、2026年11月期の年間配当予想を72円から75円へ増額(前期比5円増、6期連続増配の見込み)。11月末が権利確定日。
- **ニチレイ(2871):**17日、株主優待を拡充。2026年12月末基準から300株以上500株未満の区分を新設し、1,500円相当の商品と交換できる専用クーポンを贈呈する(公式オンラインショップの会員登録が必要)。
- **優待の新設・拡充:**MRT(6034)とエラン(6099)が優待導入を発表。FJネクストHD(8935)は優待を拡充、CAC HD(4725)は60周年記念優待の詳細を公表した。

近づく権利確定日

11月末権利の銘柄は**権利付最終売買日が11月26日(木)**、権利落ち日は27日(金)。早稲田学習研究会、日本プロセス、東洋電機製造、日本国土開発、ノダ、毎日コムネット、トーセイなどが11月末に配当の権利を迎える。年2回配当の銘柄は、今回分の配当額を各社の期末配当予想で確認したい。12月末権利の権利付最終売買日は12月28日(月)。

7．翌週の注目日程

日付	イベント	注目点
11/23(月)	勤労感謝の日で東京市場休場／米11月PMI速報	連休中の米株の戻り具合
11/24(火)	東京市場再開、月例経済報告／独Ifo、米消費者信頼感	20日の米株急落の織り込み
11/25(水)	40年国債入札／デル決算(日本時間早朝)／米10月PCE物価(コア予想前年比+3.2%)、7〜9月期GDP改定値、耐久財受注	12月FOMCの利上げ幅の見方
11/26(木)	米国市場休場(感謝祭)／米ベージュブック(日本時間未明)／田村日銀審議委員の金融経済懇談会／11月末権利付最終売買日	日銀12月利上げへの示唆
11/27(金)	東京都区部11月CPI(生鮮除くコア予想+2.9%)／権利落ち日／米市場は短縮取引	薄商いでの値動きの振れ

8．総括と来週の見通し

今週の市場は「AI相場の巻き戻し」が前面に出た1週間だった。前週は日経平均が3,707円高と強気が支配していたが、今週は好決算や大型IPOといった材料が出るたびに売られる展開へ一変した。日米の利上げ観測が強まるなか、高いバリュエーションのAI関連株への疑問が一気に表面化し、市場の性格は「AI・半導体主導の上昇」から「内需・ディフェンシブ株が相対的に底堅い展開」へと変わった。日経平均は6月の終値ベースの高値72,366.34円から22%下落しており自律反発の余地はあるが、米国株の調整局面入りと高いVIXを踏まえると、底入れの確認には時間を要しそうだ。

- **米ハイテク株の下げ止まり:**20日のナスダック5%安とCME日経225先物・円建て12月限の清算値(54,555円)を24日の東京市場がどこまで織り込むか。4月上旬の安値水準である56,000円近辺を守れるかが当面の分岐点となる。
- **日米のインフレ指標:**25日の米PCEで12月FOMCの利上げ幅(0.25%か0.5%か)の見方がどう動くか。27日の東京都区部CPIは12月17〜18日の日銀会合での利上げ観測を左右する。
- **為替と金利:**ドル円は160円近辺の介入警戒とリスク回避の円買いが交錯。円高・金利低下は輸出株と銀行株の逆風。
- **需給:**海外投資家の売り越しが続くなか、信託銀行や事業法人の買いがどこまで下値を支えるか。

【脚注】週間の前週比・騰落率、NT倍率、2銘柄の上げ幅に占める比率は筆者算出。ドル円・ユーロ円の週末水準と前週比はトレーダーズ・ウェブの NY終値。日本10年債利回りは日本相互証券の終値(11/20のみ日本経済新聞の15時時点)。日々の推移のドル円は東京株式大引け時点の報道値。米国債利回りは米財務省の公表値、金利の騰落率欄は変化幅(bp)。翌週の日程は日本時間で表記。米国市場の休場・短縮取引は現地取引日で表記。本レポートは生成AIを用いて公開情報を整理・執筆したものです。

【出典】日本経済新聞、株探、みんかぶ、財経新聞(フィスコ)、ウエルスアドバイザー、トレーダーズ・ウェブ、OANDA証券、ダイヤモンド・ザイ、三井住友銀行日本相互証券、財務省、米財務省、ロイターほか。

本資料は公開情報に基づく市況の整理であり、特定の銘柄の売買を推奨するものではありません。投資判断はご自身の責任でお願いいたします。